



元号

に
つ
い
て
知
り
た
い
!



日本で元号が使用されるようになってから、1300余年が経過した。

「大化の改新」「応仁の乱」など、元号が歴史上の出来事の名称に含まれることも多く、日本の歴史を知る上では欠かせないものと言えるだろう。

元号には、興味深いことが多い。例えば、現在の改元理由は天皇の交代、使用漢字は2文字が定着している。だが明治以前はいくつかの改元理由があり、奈良時代は一時期漢字4文字の元号が存在した。また、使用された漢字が、中国の古典を由来としていたり、南北朝時代には同時期に2つの元号が使用されたこともあった。

誕生

元号の誕生は紀元前の中国にまで遡る。前漢第7代皇帝の武帝が「建元」という元号を定めたのが始まりとされ、漢文化の影響を受けた東洋の国々によって受け継がれ、日本にも伝わった。

日本では、「大化（645年〜）」より元号の使用が始まった。その後、天皇が定めた公式の元号は一旦途切れていたが、「大宝（701年〜）」から現在の「令和（2019年〜）」までは公式の元号が継続して使用されている。

改元

明治以降は一世一元の制が実施され、天皇の交代とともに元号が変わっているが、以前は様々な節目に新しい元号を定めていた。そのため1人の天皇の在位中に、改元が繰り返されることも珍しくなかつた。具体的には主に次の4種類の理由に分けられる。

代始改元…天皇交代による改元

祥瑞改元…吉事による改元

飛鳥時代の「白雉（650年〜）」への改元は、六戸国（現在の山口県）の国司から、朝廷に白い雉が献上されたためである。他にも、奈良時代の「靈龜（75年〜）」や平安時代の「嘉祥（848年〜）」などは、縁起のいいものが献上、発見されたことを吉事として改元された。

災異改元…凶事による改元

平安時代の「延長（923年〜）」は、その前の「延喜（91年〜）」に自然災害や疫病が多発したため改元された元号である。他にも、干ばつや飢饉、地震などの凶事を断ち切るための改元があった。

※ 本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。

元年改元：三革による改元

三革とは、陰陽道（中国の陰陽五行説に基づく方術）で、「甲子革命」…千支が甲子の年、「戊辰革命」…千支が戊辰の年、「辛酉革命」…千支が辛酉の年のこと。古来、これらの年は変事が多いとされた。

平安時代の「康保（964年〜）」や、江戸時代の「寛永（1624年〜）」などは甲子革命、平安時代の「延喜（901年〜）」や、江戸時代の「天和（1681年〜）」などは辛酉革命による改元。戊辰革命による日本での改元は、確認できなかった。

飛鳥・奈良時代は祥瑞改元が目立ち、平安時代以降は、災異改元が圧倒的に増える。また、戦国の世では災異改元の理由の中に、戦が含まれ始める。

漢字

全ての時代を通して「永」「元」「大」「治」「心」は今まで20回以上も使用されている。これらは人気漢字ランキングベスト5といったところであろう。だが、時代別に見てみると、共通してこれらの漢字が人気というわけではない。そこで、時代ごとに表にまとめてみた。

時代別 使用漢字ベスト3

飛鳥・奈良時代
1位 天
2位 平・宝
3位 長
5回
6回
平安時代
1位 天
2位 永
3位 建
7回
8回
12回
鎌倉時代
1位 元
2位 正
3位 建
7回
8回
12回
室町・安土桃山時代
1位 文
2位 永
3位 正・心・徳
7回
8回
9回
江戸時代
1位 寛・文
2位 永・保・和・元・延・享
3位 永
4回
5回

平安以前は、今の世が穏やかに長（永）が続くことを、鎌倉以降は、正しい方向へと時代が進むことを願っているのだろうか。先に述べた改元理由と同じく、使用頻度が多い漢字を見ることが各時代の願いを想像することができる。

重複

南北朝時代の改元は、1336年南朝の「延元」、次いで1338年北朝の「暦応」が始まりとされる。その後1392年「明德」に統一されるまで、50余年間、それぞれの朝廷のもとに元号が設けられ、元号重複の時代が続いた。

南北朝時代の元号一覧

南朝	北朝
建徳 元	心治 徳明
正和 弘和	貞和 安暦 康暦 貞永 永暦 延文 和暦 文安 安徳
元興 天授	永延 文永 和暦 嘉慶
延元 文中	心治 貞徳 貞永 永暦 延文 和暦 文安 安徳

南朝の後醍醐天皇と北朝の足利尊氏

鎌倉時代の終盤から、南北朝時代へ進む中でキーマンと呼べる人物は、後醍醐天皇と足利高氏（後の尊氏）であろう。鎌倉時代の1318（文保2）年に即位した後醍醐天皇は、天皇でありながら鎌倉幕府を倒すことを計画する反幕府側片や高氏は、反幕府軍を討伐する幕府側で2人は相対する立場であった。だが、後に2人は手を結び、倒幕計画が成し遂げられる。後醍醐天皇は、高氏の功績を称え、自分の名（尊治）の1字を与えて「尊氏」とした。

奈良時代の4文字元号

天平感宝 (749年5月〜)
天平勝宝 (749年8月〜)
天平宝字 (757年〜)
天平神護 (765年〜)
神護景雲 (767年〜)

この時期4文字になった背景には、中国大陸の女帝 則天武后が4文字の元号を用いていた影響があったという説がある。

出典

「令和」の2文字が『万葉集』から採用されたことが話題になったが、平成以前もそれぞれに出典がある。元号を決める際には、有識者たちによって、様々な書物がひも解かれ、新たな時代への思いが込められた漢字が選ばれた。

「令和」から「明治」まで各元号の出典について、中野区立図書館に所蔵している資料で紹介する。

令和

出典：万葉集

◆参考資料

『万葉集2』青木生子／「ほか」校注、新潮社 1978年、所蔵：中央・東中野・江古田
【引用文と通釈】61〜62頁より抜粋
初春の命月にして、氣淑く風和く。梅は鏡前の粉を披く、蘭は珮後の香を薫らす

平成

出典：史記、書経（尚書とも）

◆参考資料

『新釈漢文大系38 史記』明治書院、1973年、所蔵：中央・南台
【引用文と通釈】56〜57頁より抜粋
「家の内は平和になり、世の中もよく治まった」

◆参考資料

『書経』野村茂夫／「訳注」、明德出版社 1974年、所蔵：中央
【引用文と通釈】46〜49頁より抜粋
「さいわいに洪水はおさまり、天下の大陸ともに平穏となり、万物はそれぞれの成育を遂げている」

昭和

出典：書経

◆参考資料

『書経』野村茂夫／「訳注」、明德出版社 1974年、所蔵：中央
【引用文と通釈】27〜30頁より抜粋
百姓昭明協和萬邦
「民百姓が明らかかなよき徳を持つと、さらに拡充して、天下の国々を強調和合せた」

南北朝時代の重複分も含め、大化から令和までじつに28もの元号が存在した。改元は、1つの時代がリセットされるイメージである。明治以前の様々な改元は、吉事が末永く続き、凶事を断ち切ることで、良い時代の訪れを願っていたのである。天皇交代のみが改元理由となった明治以降も良い時代への願いは継続している。
新しい元号のスタートを機に、中野区立図書館の資料とともに、元号の歴史に思いを馳せてみてはいかがだろうか。

参考文献

- 『元号事典』川口謙二・池田政弘／著、東京美術、1986年、所蔵：野方
- 『元号でたどる日本史』ケルブSKIT／編著、PHP研究所、2016年、所蔵：上高田
- 『日本の元号』歴史と元号研究会／著、新人物往來社、2012年、所蔵：南台
- 『天皇と元号の大研究』高橋明勲／監修、PHP研究所、2018年、所蔵：中央・警署・東中野・江古田
- 『中国古典名言事典』諸橋轍次／著、講談社、1978年、所蔵：中央
- 『今がわかる時代がわかる』日本地図、2018年版
- 成美堂出版編集部／編集、成美堂出版、2018年、所蔵：中央・野方

◆参考資料
『新釈漢文大系53 孔子家語』明治書院、1996年、所蔵：中央・南台
【引用文と通釈】308と312頁より抜粋
「長聡明、治五氣、設五量、撫萬民、度四方」
「成長してからは聡明で、五行の気を治め、五量を定めて、あらゆる民をいっくしみ、諸国を測量し」
これらの資料以外でも引用文は確認できる。

◆参考資料

※本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。